

湖水街道推進会議 総会 議事内容

日時：平成 24 年 6 月 15 日（金） 15：30～

場所：松江商工会議所

■議事次第

1. 開会あいさつ
 - (1) 湖水街道推進会議 座長 三代隆司
 - (2) 出席者紹介
2. 平成 23 年度事業報告並びに収支決算報告
3. 平成 24 年度事業計画（案）並びに収支予算について
4. ホームページ更新及び Facebook ページ新設について（報告）
5. パートナーシップ団体参加者からの近況報告
6. その他
7. 閉会あいさつ
8. 講演会
演題：「中村元記念館」の開館について
講師：安来清水寺 貫主 清水谷善圭 氏

■湖水街道推進会議 総会 出席者名簿

湖水街道推進会議パートナーシップ

氏 名	所属・役職	摘 要
三代 暢実	美保関青石畳通り活性化委員会	
清水谷 善圭	出雲の国「社寺縁座の会」	
佐草 敏邦	出雲の国「社寺縁座の会」	
高橋 猛	木綿街道振興会	
森 秀雄	松江商工会議所	
原田 直樹	島根県土木部高速道路推進課	
糸原 保	島根県土木部高速道路推進課	
引野 亮	島根県土木部高速道路推進課	
仁宮 幹夫	松江市都市計画部景観政策室	

湖水街道推進会議役員

氏 名	所属・役職	摘 要
三代 隆司	島根県ウォーキング協会事務局長	座長
勝部 祐治	島根県技術士会	副座長
石村 隆男	NPO法人大山中海観光推進機構	副座長
影山 邦人	NPO法人歴史文化ネットワークもくもく	幹事
岡村 昌和	鳥取県技術士会	監事

湖水街道推進会議事務局

氏 名	所属・役職	摘 要
江沢 勉	松江商工会議所	事務局
意東 恵美子	松江商工会議所	事務局
樋野 智久	松江商工会議所	事務局
沢和 毅	(株) エブリプラン地域環境計画課主任	事務局
山田 沙季	(株) エブリプラン地域環境計画課	事務局

■委員会議事要約

(1) パートナーシップ団体参加者からの近況報告及び今後の活動について

発言者	発言内容
三代座長	中海・宍道湖・大山圏域市長会では、サイクリングコースの常設を検討している。今年度、湖水街道推進会議の活動でこれに関連した取組みをしていきたい。
三代暢実氏	パートナーシップ参加団体が個々でやっているイベントに、湖水街道推進会議が協賛して広告を出すべき。費用がかからない上に、宣伝効果は抜群である。「神仏の通ひ路」道路看板設置や道の駅については、鳥取県との連携を図るべきである。また、松江尾道線の開通を考慮し広島県との繋がりをどう構築していくかを考えていく必要がある。
森秀雄氏	尾道松江線開通のメリットの一つとして、マイカーでの来訪により観光客が山陰の特産品をたくさん買って帰ることが可能になるという点がある。特産品や食材が豊富な日本海側や中山間地にも観光客を誘導するような仕掛けを考えてみてはどうか。
糸原保氏	鳥取県との連携に関して、「神仏の通ひ路」道路看板については鳥取県側に話をしたが、中海関連の事業は市長会が担当しているため、市長会に話をする必要があると言われた。サイクリングコースについては、宍道湖沿岸を含めて話を進めている。また、道の駅の連携は昨年から力を入れて取り組んでいるので今年も継続して取り組み、道の駅での情報発信や情報の充実を図りたい。道の駅同士の連携は、現状では中国地方での枠組みとなっている。
勝部副座長	鳥取県内の道の駅の連携は進んでいる。また、道の駅は各自の物販や飲食事業で手一杯という状況である。
森秀雄氏	市長会は単独で予算を持っている。湖水街道推進会議が市長会に働きかければ、大きな予算を得ることができるのではないかと。
石村副座長	中海・大山圏域の特徴は自然である。この自然の中でスポーツを楽しむイベントとして大山でのサイクリングを実施しており、多数の参加者がある。山陰西部の観光の柱としてサイクリングを普及していきたい。現在、韓国では自転車ブームとなっており、境港では自転車に乗った韓国人が見られる。インバウンド対応として自転車というキーワードで観光客を呼び込むことも可能であると思われる。 道路面にサイクリングコースのペイントをするほか、サインの設置も予定している。来年、鳥取県はグリーンイヤーとして10月にエコツーリズム国際大会が開催される。中心はサイクリングで、ガイド付き

	<p>のサイクリングコースの設定を考えている。</p> <p>皆生では KOG ステーション皆生というレンタサイクルの仕組みがある。これを宍道湖・中海・大山圏域で発展できればよい。観光客に向けて、皆生～境港までのサイクリングロードは実現していきたい。市長会にも提案していきたい。</p>
三代暢実氏	<p>自転車は駐輪場が必要になる。また、初心者とプロが同じ道を走るのは危険である。</p>
清水谷善圭氏	<p>白鳥ロードサイクリングを実施したときには、初心者とプロでコースを分けたため危険ではなかった。</p>
石村副座長	<p>大会やイベント時のみではなく、日常的に利用できるサイクリングロードやコースを構築したい。</p>